



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

ひと
ツムぐ学生

第25号

2017年8月8日

編集 竹内稔博

(東浦中学校主幹教諭)

夏休みわくわく算数・数学教室特集号 No.4

～そうだ、夏は、東浦へ行こう！ 東浦の子どもたちのために、
そしてSPさん自身の教師力向上のために～

もう一つの「わく算」



東浦町文化センター1階のホールで、熱気溢れる「わく算」が行われているその外。ロビーの片隅。ちょっと暗いけれど、そこで一人のSPさんと一人の女の子（Bさん）が、算数の問題をやっていました。ここに、わく算の教育活動の“すごさ”がありました。

Bさんは小学校2年生。1年生の頃から不登校の傾向がありました。2年生の1学期、なかなか教室に入れず、まず保健室に登校していました。養護教諭や心の相談員さんが親身になって1学期、彼女と関わっていました。でも、な

かなか授業に出られないので、勉強は遅れがちでした。

養護教諭が、「夏休み、片葩小で有名なわくわく算数教室に来てみない？」とBさんを誘いました。養護教諭とBさんとの間に人間関係が出来上がっていたから誘うことができたのです。Bさんからは、「行ってみる」という返事。しかし、集団の中には入りづらいだろう。「だったら一人でやればいいよ」ということで、SPさんを一人つけました。Bさんのことを一番よく知っているSPさんを担当にしました。Bさんは、1学期、遅れがちだった勉強をするために、夏休みにわざわざ家を出て、やってきたのです。1時間半。Bさんにとってこの時間はとても素晴らしい体験になりました。2学期につながる時間となりました。

ここまで徹底的に個を大事にし、1対1の関係を大事にして教育活動が行われている、こんな教育は日本全国探してもありません。自分がBさんの親だったら、学校に、先生に、SPさんに、そしてこういう教育を受けさせてくれる東浦町に感謝するでしょう。なぜなら、自分の子を大事にしてくれて、徹底的に個を大事にしてくれている教育だから…。

片葩小学校の養護教諭も、様子を見に来ました。BさんとSPさんの「もう一つのわく算」の様子を見て、幸せな気持ちになりました。これこそ、教育の原点です。そんな教育活動を、「わく算」はやっているのです。SPさんの力を借りてやっているこの教育実践は、相当、尊いものだと思います。

